

多摩デポ通信 第66号

特定非営利活動法人共同保存図書館・多摩

2024年1月25日発行

〒182-0011 調布市深大寺北町一・三一・一八

●HP / <https://www.tamadepo.org>

●E-Mail / office@tamadepo.org

新年にあたって

理事長 座間直壯

今年の元旦は石川県能登半島を震源とする地震が発生し、大変な被害をもたらしてしまいました。現在も災害関連を含めて亡くなられた方が増え続けています。一刻も早い救助の手が届くよう願うばかりです。亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると同時に、被災された方々に心よりお見舞い申し上げます。

図書館も大きな被害を受けていることが日本図書館協会のメールマガジン臨時

号で報告されています。

石川、福井、富山、新潟の各県立図書館は復旧作業を進める中で、概ね5日からは開館しているようですが、能登地域の各市町立図書館については困難な様子が今も続いているようです。当面の支援判断については日本図書館協会のホームページを参考に使いたいと思います。

さて、コロナも感染症5類に位置づけられ、人の動きが徐々にではあります。多摩デポも従来の多摩デポ講座の開催を通常に戻しつ

つ、計画してきた府中市立図書館の蔵書データへのISBN機械的付与とその検証作業の実施、多摩地域ライブラリアン講座の運営、TAMALAS（多摩地域公共図書館蔵書検索システム）の普及、図書館資料の里親探し等の事業をすすめています。

2024年は共同保存の目標に向かって新たな一歩を踏み出していきたく思います。皆様のご理解とご支援・ご協力をよろしくお願ひ申し上げます。

□ 今号の内容 □

- ・新年にあたって 理事長 座間直壯
- ・多摩地域公立図書館大会
第4分科会への参加呼びかけ
- ・図書館大会でお伝えしたいこと
中川恭一（理事）
- ・TAMALASをご自分でも
試してみてくださいませんか
- ・第42回多摩デポ講座
＜港区芝の二つの図書館の見学会＞
ご案内とお誘い
- ・府中市のISBN推定と検証作業その後
- ・第41回多摩デポ講座PARTIIの報告
- ・第1回多摩地域ライブラリアン講座を
開催中
- ・メールアドレス変更のご案内
- ・会の現勢

多摩地域図書館大会で
多摩デポの理事が
TAMALASのことを
実験しながら発表します

— 紹介・参加へのご案内

2月6日から、東村山市立中央公民館（西武新宿線東村山駅すぐ）で、東京都東村山立図書館長協議会主催の、東京都多摩地域公立図書館大会が開かれます。
7日（水）午後の第4分科会のテーマは、『市町村立

図書館におけるTAMALAS活用の可能性』で多摩デポの中川理事と、共同研究パートナーの榎カーリル吉本龍司代表が出演です。

この大会は、東京都立図書館がそれまでの区市町村図書館との連携を見直し縮小する経過の中で、多摩の市町村立図書館で自律的な開催が始まり約20年続いてきました。毎日各市から数人ずつの職員が参加し、市民の当日参加は自由です。第4分科会の紹介と参加の呼びかけをいたします。

図書館大会で お伝えしたいこと

中川恭一（理事）

TAMALASとは
何でしょう？

各自治体が蔵書を除籍する際はいろいろなやり方をし

ていました。自分の自治体の中で複数館ある場合は、まず自治体の中で1冊だけは残そうとします。

さらにそこから踏み出し、1冊しか残っていない本を除籍するかどうかの判断については、都立図書館が持っているかとか、その前に多摩地域で残っているかを調査します。ツールとしては、都立図書館が提供する都内図書館の統合検索にかける。そして多摩地域全体、あるいは23区、都立図書館の蔵書にはあるかなどの結果を得ます。こうして、目の前の1冊は捨ててもいいかという判断を押しなべてやってきました。

そこに榎カーリルと共同開発で多摩デポが提供するTAMALAS（多摩地域公共図書館蔵書検索システム）ができました。これは、ある本を多摩地域では幾つの自治体が所蔵しているか

をISBN（国際標準図書番号）から判断できるシステムです。最初発表したのは、1件ずつ処理するので「個別処理システム」と言います。バーコードリーダー等でISBN番号を入力すると多摩地域のどの自治体がその本を持っているか（自治体単位なのでどの館かまではすぐには出ませんが）自分の自治体以外の所蔵が一覧でき、かつ、それが多摩地域でラストワンツーム（2冊未満）だと、チャームが鳴って知らせてくれます。

2015年度の市町村立図書館長協議会（以下、「館長会」という）総会で、榎カーリルの吉本代表が講演されています。

府中市で、「一括処理」 による大規模な作業

府中市には自動出納書庫

があります。書庫の中に人は入れず、必要な時には、指示した資料を資料が入ったケースごと、操作口に運んでくるシステムです。書庫に収蔵された約53万冊の資料から、市内での重複や内容が古くなった資料などを一定数除籍しスペースを確保する作業に、TAMALASを活用しました。「多摩デポ通信」第58号に職員笹川美季さんからの報告があります。

この作業では「個別処理システム」ではなく、大量データをTAMALASにかける方法として「一括処理システム」を使いました。「Excel」データとして数万冊単位で出力し、メールで榎カーリルに送ると、早ければ翌日には、データの中の各タイトルの多摩地域での所蔵数が判明するというものです。

万単位の規模ですから1

冊1冊個別に検索していくのはとても面倒です。そこで「一括処理システム」の出番となったのです。

会場で「一括処理」の公開実験

今回私が図書館大会で行うのは、コロナ禍の2022年5月にZOOMで実施した、職員向け多摩デポ実践講座の内容を再現しようというものです。再演というわけですが、その後の状況変化を盛り込み、膨らませた内容でお伝えしたいと思います。

2年前は私の個人蔵書で元データに使用しました。私の鉄道旅行趣味から買い集めていた蒸気機関車関連主題の本のうち、ISBNの付いた120冊を「一括処理システム」にかけたらどうなるのか実験してみました。今回はデータを15

0冊として、会場で「一括処理システム」をつなげてカーリルとの交信を実験してみるとというのがハイライトです。

150冊はどういう規模でしょうか。図書館の開架書架の棚1段は約90冊で、1段当たり40冊弱並べられます。150冊だとだいたい4段ですね。ある図書館の書架4段の同一分類から一定数を除籍し、書架に余裕を作って新しい資料を上架したいという場面に「一括処理システム」を使ってみようというわけです。

府中市では万単位ですが、今回は150冊です。いったい何分で調べたデータが返ってくるか。短時間での処理が可能なら、休館日の1日を使ってExcelデータを作成してカーリルに送信。返信のデータから、どのくらい多摩地域のラストワンツースが含まれるか？除籍判断を決める作業が早

ければ午前中で完了でき、実際に書架から抜いて、空きスペースを作ることができそうです。

TAMALAS活用のアンケートから

多摩地域の図書館でTAMALASがどのくらい使われているか。アンケートの結果は、「多摩デポ通信」61号に私が報告しました。「個別処理システム」は、既に各自自治体での除籍作業に採用され日常的に使われていることが判明しました。

一方、「一括処理システム」は、大規模な除籍作業にこそ有効だろうという思い込みからか、まだ上手く使われていないようです。「一括処理システム」のIDを申請し取得したのは現在11自治体です。除籍作業の際に用いるツールとして、TAMALASと都立図書館の

統合検索の2つをチェックしているのは17市1町。過半数です。TAMALASのみチェックしているのは6自治体。統合検索だけは4自治体でした。

アンケートのコメントでは「一括処理システム」が有効に使われないことについて、おそらく大げさに考えているのではないかなと思える節がありました。そこで150冊という小回りを利かせた新提案をしてみようというわけです。

公開実験からつなげてー 共同保存の方向性を

講演の締めくくりには、「一括処理システム」活用の促進プランとして、①小規模な（こまめな）除籍作業にも向いている、②（他自治体の所蔵状況を「一括処理システム」で確認すること）を多摩地域全体のルー

ルにできないか、③一括処理で希少性のデータを先に取得しておいて除籍などの判断は後付けでもいいのではないかなどを提案したい。「一括処理システム」活用のためのサポートとしてはどんなことが望ましいのか、今年度、「館長会」で承認された「除籍ガイドライン」の運用に対して、多摩デポはどのようなサポートが可能なのか、さらには、資料保存の議論を多摩デポから「館長会」へ、さらに都立図書館へつなげていくためには？：なども加えたいと思います。

かつて都立多摩図書館は、都立中央図書館との重複図書14万冊を一括廃棄しました(2002年)。当時、「今後は都立図書館として原則として1冊ずつしか持たない。その1冊も30年の有期保存とする」と都立図書館あり方検討委員会が表明しました。実は、この「有期保存での除籍」は未だに実行されていないことが判明しました。昨年8月の多摩デポ講座(都立中央図書館見学会)で得た情報です。

都立図書館では、国分寺市に建設した新都立多摩図書館の閉架書庫の有効活用により資料保存を継続できているという事実。また全国の県立図書館の中では、県内の資料保存を計画的に進め始めている実態。それらを踏まえて、共同で資料保存に取り組む考え方を都立と市(区)町村とですり合わせることが可能なのではないか、「館長会」と都立図書館、多摩デポの問題共有と検討を諮る機会も考えられるのではないか。

来場される職員や市民の方とこうした課題も共有したいと考えています。

読者の皆さん

TAMALAS をご自分でも試してみてくださいませんか

- ・多摩デポが多摩の公共図書館に提供する、検索と希少な本の歯止めの手段。それがタマラスです。
- ・市販の本には40数年前から、発行時点でタイトル毎に違う識別番号ISBNが付いており、今では本の背表紙に13ケタ(以前は10ケタ)の数字が、ISBN〇〇〇〇と、必ず印刷されています。
- ・TAMALASはISBNを使って、そのタイトルの本が、多摩地域のどの自治体で所蔵しているか一瞬で分かります。そして多摩で1つか2つの自治体しか持っていない本には、保存を促す警告音が鳴る仕組み。

※2月7日の分科会で中川理事が話すことの中は「TAMALAS 一括処理システム」ですが、基本の「TAMALAS 個別処理システム」をご自分のスマホやネットに接続したパソコンでどうぞ使って調べてみてください。

- ・次ページには、<TAMALAS の使い方>を載せています。



<TAMALAS の使い方>

- ・インターネットの検索窓に、「TAMALAS」と入れる。
- ・カーリル「多摩地域公共図書館蔵書確認システム-TAMALAS」をトップに、多摩デポ HP の仕組みの説明表示などが出てきます。
- ・「多摩地域公共図書館蔵書確認システム-TAMALAS」をクリックしてみる。
ISBN 数字を入れて、「検索」を押すという、操作画面が出てきます。
- ・窓に、何かの本の ISBN を入れ「検索」を押してください。
- ・その本を持つ自治体名が、高速で一覧表で出てくる！（計 ○自治体と）
- ・そこに出た自治体名をどれでもクリックすれば、その自治体の図書館の、検索ページに飛べる！
- ・手近にある本の ISBN を入れてください。どの市に所蔵か瞬時に分かります。どうせなら気になる本、珍しそうな本も試してください。（どこで入れているか？まだ残しているか）。
- ・多摩で1、2自治体しか持ってなければ **<警告音> 除籍注意!**が鳴ります。

第42回多摩デポ講座

保存に力を注ぐ港区芝の
二つの図書館の見学会
・三康図書館
・BICライブラリ
一緒に行きませんか

新型コロナウイルス感染症が5類に移行し、実際に足を運ぶ見学会の提案ができるようになりました。3月8日（金）に見学会を行います。まだ注意が必要な時期ではありますが、どうぞご参加ください。
港区芝公園地域のユニークな二つの図書館を、午前と午後を使い途中に徒歩移動と昼食をはさんで、それぞれ2時間程見学します。まる一日参加が難しい方はどちらか一方だけの参加でもかまいません。

参加費無料、定員は15名です。参加希望の方は多摩

デポの新しいメールアドレス

(office@tamadepo.org) に、

名前、所属、多摩デポ会員・

非会員、全日参加か午前・

午後だけか、(希望あれば)

返信先アドレスを書いて、

2月25日(日)までにお申し

込みください。受入れは

多摩デポ会員と多摩地域の

図書館員を優先で先着順。

それ以外の方も応募可、締

切後に空きがあれば受入れ

(参加可否のご連絡は27日

までには必ずします)。

当日は午前10時にIR浜

松町駅北口集合、終了は午

後3時30分予定。同封する

チラシもご覧ください。

▼午前

10時30分～12時30分

三康図書館(三康文化研

究所付属図書館)

▼午後

13時30分～15時30分

一般財団法人機械振興協会

BICライブラリ

両館は、実績を持ちながら廃館になった別の図書館の蔵書を蔵書に組み入れ、紹介と新たな利用の拡がりを目指す取り組みを熱心に行っています。

「三康図書館」は、明治中期から戦後初期まで盛んに利用され、東京市内の貴重な公共図書館だった大橋図書館の蔵書を引き継いでいます。大橋図書館は、(戦前には大きな出版社だった)博文館書店の出資で作られた私立の公共図書館。豊富な蔵書、開架式書架の導入、ブックリスト作りや読み聞かせ等の児童サービス活動などで、現在の公共図書館の先駆的な存在だと言われています。

三康図書館は大橋図書館蔵書を保持してきましたが、今、その紹介にも熱心です。書庫を見せてもらいますが、大橋図書館のこと、そして

三康図書館のことを教えてもらいましょう。

「BICライブラリ」は、機械工業関係の専門図書館の「機械工業図書館」が、2011年に、BIC(ビジネス・インフォメーション・コモンズ)ライブラリに名称も変更してリニューアルされた図書館です。

業界関係者向けばかりではない活発な活動は、公共図書館しかあまり知らない職員や市民にも「一見の価値あり」です。特に昨年11月からは、「自動車図書館」(運営は日本自動車工業会)の廃館にあたり蔵書4万冊を引き取り、「くるまコレクション」として一括公開を始めています。その見学や経緯だけでなく、専門図書館全体の説明や事情、利用拡大大への取り組みなどのお話を伺います。

府中市立図書館の蔵書のISBN未記載目録への機械的推定と検証

ーボランティアの方と

府中市蔵書でISBN未記載の目録にISBNを推定しお渡しする事業をしています(詳細は前号を参照ください)。2度目の作業は児童書の推定・検証です。

事務局員と共に10人のボランティアの方に作業してもらいました。一定確度でISBNが機械的に推定できただろうデータが830件。これを二人ずつの点検で確かめました。

手書き目録からの移行で(市内書誌割れ)と推定されるものもあり、ISBNが確定できたと判断できるのは70%程と思われま。既に検証結果を戻していた頂きましたが、事務局まとめて手間取り、府中市へのお渡し、ボランティアの方への報告はこれからです。

第41回多摩デポ講座

PART II

都立中央図書館の

書庫と資料保全室

見学会の報告

見学会は8月にも開催しましたが、定員の関係で参加できなかった方があり、PART IIを昨年11月21日(火)に開催しました。参加は6名で見学交渉の経過を考えると少なめでしたが、案内されたところでは説明をよく聞いたのではないかと思われます。前回は最初に都立図書館の保存方針などの説明の時間が設けられたのですが、今回はそれなく、書庫の見学から始まりました。

都立中央図書館の書庫は長年湿気とカビの臭気に悩まされてきましたが、新たに採用した防湿・防カビ・防臭設備が功を奏し、順調に機能している様子がある

がえました。特に紫外線殺菌灯を利用した空調設備は国内でも使用例は少ないようです。書物の保存環境に加えて働く職員の健康管理を考えると、防カビ・防臭の効果は今後の書庫設備の必置アイテムになるだろうと実感しました。

次に都道府県立図書館の中で唯一という、資料保存・修復の専門部門である資料保全室を見学させていただきました。所蔵資料を常に良好な状態に保ち、要望があればいつでも提供できるような資料保存の様々な作業を行っています。江戸時代の和装本など貴重な資料も多く、貴重な文化遺産を保存していく使命を担っています。

主な仕事としては、資料の保存対策、製本が脆弱な新刊本の事前製本、経年劣化による損傷資料の修理、和装本の修理、酸性紙資料

の劣化抑制処理、他図書館への技術指導などを行っているということ。更に特筆すべきは、災害の被害を受けた図書館資料のレスキュー作業です。特に図書館の地域資料は唯一無二の資料が多く。地震や津波、洪水などで泥まみれの状態となったものの修復作業は大変根気のいる作業ですが、時間をかければ利用できるまでに復活できるということでした。

案内役の眞野節雄さん（資料保全専門員）から実際に水に浸かって泥だらけだった資料を修復したのを見させていただきました。たび重なる災害に見舞われる我が国の現状を考えると、このような修復作業の専門知識や技術を蓄積する制度的な仕組みが県立図書館レベルでは不可欠なものであることを認識する必要があることを痛感します。

参加したお二人から感想をいただけたのでご紹介します。

* * 救急セットの完備と修復保存への意識

この度は見学会に参加させていただきありがとうございました。

都立中央図書館でまず驚いたのが本の救急セット（救急バケツ？）とも言える用具が完備されていたことです。水濡れした本は時間との勝負なのです！それからやはり、拝見させていただいた本の修復についてです。泥の中から蘇

った本はもちろんのこと、経年劣化の本の修復保存についても、なんて地道で緻密な作業なのでしょう！

PCならデータさえとればOKなのでしょうが、書籍の場合は見た目、風合い、手触りまで考慮なさっていると、ところが凄いなと思いました。（片桐早織）

百聞は一見に如かず

『図書館資料の保存と修理』その基本的な考え方と手法』（JLAブックレット ⑬ 日本図書館協会 2023年4月刊）著者の眞野氏の職場に行けるとの思惑で参加した見学会は、期待を裏切らないものでした。

中性紙のコピー紙をなぞった際は紫色なのに、脱酸処理前の紙では黄色、処理後の紙では鈍い鶯色の跡が残る中性紙チェックペン。大きな縦型ボックスに入れ



られ、各処に置かれていた被災資料救済セット。殺菌した空気を館内に送り出す空調機（これによって清掃の頻度も下がる）などなど。資料保存のための装備・設備は素晴らしかったです。そんな理想を追求してきた施設ながら経年のため雨漏りも多いそうで。けれども雨漏り箇所を一覧できるマップが作られ、素早い対応に備えられているのにはプロ魂を感じました。

眞野氏の著作から、資料の補修には多種の和紙を使い分けられていると知ってはいましたが、和紙の微妙な違いは、実物を目にし、手触りを感じて初めて実感できた気がします。紙というより綿毛とも思えるような極薄の和紙、それを米のとき汁より薄い糊で補修する。その補修の作業実演を拝見できなかったことだけがちよつとだけ心

残りです。

貴重な見学会に参加させていただきありがとうございます。 (室谷好美)

今回はPARTⅡでした。都立図書館の資料保存の全状況は前回お話しされたということで今回は割愛され、事務局スタッフには若干物足りなさが残りました。しかし紹介できたように、一般の参加者にとっては普段立ち入ることが出来ないエリアを見られた良い機会となったと思われまふ。

都立図書館の資料保存の現状等は前号『多摩デポ通信』第65号をご覧ください。HPから読めます。

〔座間直壯〕



第1回多摩地域ライブ ラリアン講座を開催中

多摩地域の公立図書館で働く10人の方を受講生に、昨年9月から講座が始まりました。10のテーマ、9人の講師によるオンデマンド講義を12月期限で提供し、受講生からは課題レポートが返ってきました。

同時進行で、図書館で働く者として提案したい新規事業を、それぞれ考え発表する準備を進めています。数人の班に分かれZoomによるワークショップで、プレ発表しながら練り上げてきました。1月29日には企画の全員合同の発表会を迎えます。それを元に各自がまとめの小論文の執筆にかかります。次号「通信」には受講生に終了後の感想を書いてももらえるよう、お願いしたいと思います。

多摩デポへの

Eメールアドレスは

office@tanadepo.org へ、

変更になりました

連絡先にしていただいた YAHOO メールが使えなくなりしました。回復しないためメールアドレスを12月13日変更しました。同月8日以降に、depo_tana@yahoo.co.jp に送信して多摩デポから返信がなかった場合、再度新アドレスでご連絡ください。ご迷惑をかけ、すみません。

★会の現勢

24年1月1日現在

●正会員

(個人) 80名

(団体) 2団体

●賛助会員

(個人) 28名

(団体) 2団体

●年会費

正会員 五千円

賛助会員 一口二千円